SDGｓ　ＱＵＥＳＴ　みらい甲子園　東海エリア大会

アクションプラン優秀賞受賞

高校生が地球や社会問題解決に向けたアイデアを発表するコンテスト「SDGｓ　Quest　みらい甲子園」において、東海３県 29 校 89 チーム・326 名が参加した中から、安城高校生活文化科ボランティアグループ「ハッピーキッチン」が、「アクションプラン優秀賞」を受賞し、朝日新聞に掲載されました。また、このアクションプランのプレゼンテーション動画は、SDGs Quest みらい甲子園ホームページ（http://sdgs.ac）にて視聴ができます。

“ローゼルの輪”で、健康で働きやすい社会と温暖化防止へ

アクションアイデア 優秀賞 愛知県立安城高等学校

テーマ 私たちの未来をローゼルと共に

*チーム名：ハッピーキッチン　参加者：野村 朱里、鳥居 芽衣、山本 帆夏、石川 結菜（敬称略）

アクションアイデア優秀賞に選ばれたのは、地元食材で地域産業をPRする活動を行う安城高等学校ハッピーキッチン。生活文化科の家庭クラブ活動の一環として、2年生より自主的に所属するボランティア活動の一つで、ハーブの一種、ローゼルを広めるプロジェクトを展開する。きっかけは、障がい者支援施設で栽培するローゼルの商品開発を依頼されたこと。「ローゼルはビタミンやミネラルが豊富で、二酸化炭素を多く吸収するなど、美容や健康、環境にやさしい植物。普及が健康増進と障がいのある方の就業支援、地球温暖化防止につながると思った」と話す。

これまでに、校内で栽培したローゼルで試作を重ね、ふりかけを商品化。農家や企業の協力を得て生産量を増やし、マスコミへのリリースや学校HPなどで紹介している。ネット販売のほか販路を広げ、「刈谷ハイウェイオアシス温泉施設での販売と食育講座が決まった」と発表した。また、植栽促進のため種の無料配布も実施する。入浴剤の商品化など、今後も多様なプランがあり、ローゼルによる地域産業の活性化を見据え、行政との連携も計画中だ。

テレビ番組で紹介されるハッピーキッチンのメンバー

1．探究テーマとそれを選んだ理由

<探究テーマ>

ローゼルを広め、健康増進と就業支援・環境保全を目指す

ニュースリリースを作成しテレビ局や新聞社に活動を広くアピール

<このテーマを選んだ理由>

知的障がい者支援施設で栽培しているローゼルの商品開発が…困っていることを知る

学校で学んでいる知識や技術を生かし、ローゼルの商品開発に

地域で連携し、知的障がい者支援施設の方と商品を製造

ローゼルは美容と健康に良く、二酸化炭素を吸収する役割がある優しいハーブだが、認知度が低いため普及されていないことを

ローゼルを広めることで、人々の健康増進と就業支援

さらに地球の温暖化防止につながるのではないかと考え

受賞者メッセージ

ふりかけの商品化ではローゼルの酸味を抑えるのが難しく、コロナ下で施設とのコミュニケーションが取りにくいなど、大変なこともありましたが、乗り越えた甲斐がありました。これを機に認知度の低いローゼルを多くの方に知ってもらい、持続可能な未来の構築に貢献できたら。今後の活動を通してSDGsの輪を広げて行けたらと思います。

審査を終えて

このチームの行動力は目を見張るものがあります。ローゼルという植物を自ら栽培、レシピを考案、商品化、販売、マスコミを通じて情報発信と、アクションが発展。特に、障がい者福祉、地域の企業との連携が高く評価されました。CO_2削減はもう一工夫必要ですが、健康や雇用など複数のSDGs達成に貢献する取り組みに期待します。

【実行委員】 杉山 範子
名古屋大学大学院 環境学研究科
特任准教授

植物の特徴を事業価値から探究し、気候変動対策と福祉課題を結びつけた俯瞰的な着眼点はSDGsの達成に向けた調和的解決をしっかり捉えています。高校生自らが社会実装化させていくために地元企業や市民の共感を集める手法はパートナーシップ事業としても素晴らしい波及効果が期待できます。

【実行委員】 水野 雅弘
SDGs.TV代表
みらい甲子園総合プロデューサー

2022 年 3 月 31 日　朝日新聞掲載記事

ローゼルを使用した商品の開発にチャレンジ！

ふりかけ「乙女の真心」が完成

校内や刈谷ハイウェイオアシスの温泉施設にてふりかけの販売とローゼルの普及活動を実施